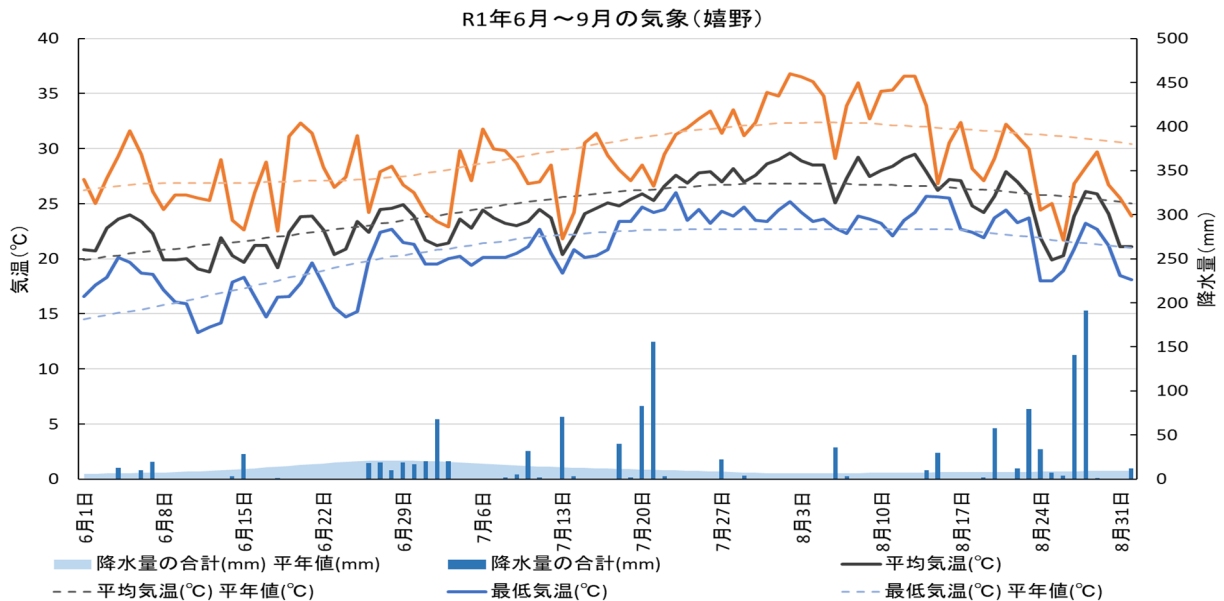


令和元年お茶づくり技術情報（No.9）

2019年（令和元年）9月10日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. これまでの気象と生育



- 1) 二番茶摘採～浅刈り時期の6月中下旬の降水量が少なかった。その後7月下旬～8月上旬は気温が高くなり、秋芽生育期の8月中下旬は降水量が多かった。
- 2) 本年の試験場内の秋芽は、伸長は良いが葉はやや薄い傾向である。

(参考) 試験場内の秋芽の生育



写真 やぶきたの秋芽
(6/20 浅刈り、9/3 撮影)



写真 さえみどりの秋芽
(6/25 浅刈り、9/3 撮影)

向こう1か月の天候の見通し 九州北部地方（8月31日～9月30日）

福岡管区气象台

予報のポイント

- 前線や湿った空気の影響で、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は
平年並か少ないでしょう。
- 期間のはじめは日照時間の少ない状態が続く見込みです。
- 向こう1か月の平均気温は平年並か高いでしょう。

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方	低20並40高40% 平年並か高い見込み	少20並30多50% 多い見込み	少40並40多20% 平年並か少ない見込み
数値は予想される 出現確率です	平均気温（1か月） 	降水量（1か月） 	日照時間（1か月）

2. 今後の管理

1) 秋整枝

(1) 整枝の時期

- ・一般的には、秋芽の生育が停止する時期（平均気温 18～19℃以下が目安、
例年 10 月上旬中旬頃）に行う。
- ・整枝を行う位置において、越冬芽の大きさが小さいと早く、大きいと遅くす
る。（芽が大きいと再萌芽の可能性がある）

(2) 整枝の位置

- ・一般的には、生育の良い茶園では前回整枝面の2～3節上で、悪い園では軽
くならず程度に整枝を行う。
- ・一番働く葉（光合成能力の高い葉）が表面に出るようになるべく調節する。
※厚くて色の濃い葉が光合成能力は高い。
- ・整枝位置は、茶園の端で高さを決めると低くなりやすいので、園の中央付近
で決める。
※雨が続いた時期に展開した葉は、徒長して薄くなりやすいため、秋整枝を
高めにした方が良い場合もある。

2) 深耕

茶園共進会における茶園の土壌硬度は年々高くなっており、根の伸長を促進するためにも深耕による土壌環境の改善が重要である。

今年7、8月の降水量は平年より多く（平年比7月：136%、8月：263%）、今までのところ土壌水分が高く推移していることから、9月中旬までを目途に深耕を行い、うね間土壌の膨軟化を図る。特に来年度中切り更新を計画している園や幼木園を中心に行うことで、深耕の効果がより高くなる。

深耕を行う際には、断根による生育への影響を考慮し、片うねずつ行うことが望ましい。また、深耕前に堆肥等の有機物を施用することで深耕の効果の持続が期待される。

3) 病虫害対策

病虫害防除については、『平成31年度佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき』を参照してください。